

Our Motoring Story

UCGに携わる様々な人たちのプライベートカーライフを大公開。
1台に長く愛情を注ぐ人、次々に買い換えてフィールの違いを味わう人。
愛車とのつき合い方は千差万別なれど、それぞれみんな楽しんでいるようです。



1995 Volkswagen Vanagon

野田義彦 __ 編集部

今月も走行距離をぐんぐん伸ばし、オドメーターの数字は161707となった。このペースで走り続けると来春には17万kmを超えるかもしれない。ところで、気になることも出てきた。握り切りするとパワーステアリングポンプあたりからいや～な異音が出るようになってきたし、超低速走行時にはガタガタというジャダーが出る。パワステとトランスミッション……、けっこうバイカもしれない。1年点検までてばいいんだけど。



1989 Porsche 911 Carrera Clubsport

加納亨介 __ 編集部

今月もページを確保できませんでした。便りのないのは良い知らせ、ということしておきます。いや実際、月に1回は遠出してフラットシックスをぶん回しているの、相変わらず調子はいいです。あ……でも、昨春以来ヒーターのファンは不動。一応もや～と暖気は出てきて室内はそれなりに暖かくなるので、今のところは放っていますが、デフロスターが効いてくれないのは困りものです。まあ、タオル1枚あれば済む話なんですけど。

1967 VW Type II Westfalia

中嶋光貴 __ 広告担当

ボディを蝕んでいるサビの修復作業が続いている。予算のこともあるので、今回はボディ左サイド・下部のアウター／インナーパネルを張り替えたところで打ち止めにするようにした。フロントパネルは先送りにする。どうせ雪道を走るとサビは大幅に進行するのだから。実家のある長野県はご存じのとおり雪国、やはり融雪剤は古いクルマの大敵のようだ。というか、40年前のクルマでガンガン雪道を走る自分の責任なんですけどね。



1991 BMW 535i 10th Anniversary

加納亨介 __ 編集部

世間的には535用メッシュのほうが偉いようですが、個人的にはE34にはやっぱりコレ。525用ディッシュホイールです。凍とした佇まいがステキ。クルマを購入した「つたえファクトリー」が冬タイヤ用にと調達してくれた中古品で1本3000円也。リムのガリ傷がけっこうキテますが、そもそもボディも擦り傷等々わりとキテますんで、これはこれでグレートバランスです。ミシュラン X-ICE と組んだものの雪山はまだ。今月はプロによる室内クリーニングの話。

1992 Lancia Thema 8.32

1992年式 ランチア・テーマ 8.32 _ 走行距離 61,550km 2006年12月購入 (価格:178万円)



今月号の特集に登場した我がランチア・フェラーリ。カメラの後は8.32談義で盛り上がるモータージャーナリストの石丸淳さんと担当者がいて、さらにその後には黙々と仕事をする丸山カメラマンがいる。

イタリア的“悪女”

3ヵ月ぶりの登場となるが、壊れて工場に入っていたわけではない。あれから100kmほどしか走っていないものの、幸運にも平穏無事な日々を送っている我が“ランチア・フェラーリ”。ポルシェやBMWは毎日乗ったほうが壊れないが、フェラーリやランチアを足にすれば壊れるとは、よく言われることだ。それって正解ではないけれど、間違っているともいえないのかも。

上の写真は特集に登場してくれたモータージャーナリストの石丸 淳さんが乗る01年式ジャガー XJ3.2とのツーショット。彼も8.32の虜になったひとりで、80年代後半に前期型と数年をともに過したという。で、8.32の元／現オーナーが集まればやはりトラブルの“くちプロレス”になる。彼の愛車もいろいろあったそうだが、オーバーヒートには最後まで手を焼いたらしい。たぶん当時は有効な対策法が見つかっていなかったのだから。それにしても、真夏も足にしてガンガン都内を走り回っていたというのだから、さすがデイトナ・ダブルシックスなどを乗り継いでいるエンスー・ジヤス

ト、すごい！
この8.32の水温上昇に関してはメールなどで相談を受けることが少ない。そして、様々な対策を施している個体も見えてきた。冷却ファンのONとOFFを手元スイッチで行なう／小型の冷却ファンを増設／ボンネットにスリットを入れる／ジェターのコア増しなど、どれもオーナー苦心の作だった。僕は、ファンを作動させるセンサーを増設するだけにとどめているが、けっこう効果はあるようだ。真夏に環状八号線などの渋滞にハマると、やはり水温はじりじり上昇していくものの、オーバーヒートの経験は一度もない。お手軽だし、コストもそれほどかからない。この対策法が正解なのではないだろうか。

ところで石丸氏曰く、「8.32はイタリア的“悪女”」。ムムムム……、さすがいろんな経験、いろんなクルマを知っている彼の言葉は深い。僕にもその意味を理解できる日がくるのだろうか……。

Text : 野田義彦

1991 BMW 535i 10th Anniversary

1991年式 BMW535i 10th アニバーサリー_走行距離 67,550km 2007年5月購入(価格:75万円)



プロの仕事はやっぱりスゴイ

まあたしかに、前々から気にはなっていたのだ。ページレザールのインテリアはどうしたって汚れが目立つ。17年落ちになろうとしている我が535iも、なんとなく長年のホコリがたまってくすんでいる感じがあって、どこどなく全体的に黒ずんでいる。そのうちキレイにしようと思って洗剤やらレザークレットやらを買って揃えておいたものの、なにぶんにも多忙で……じゃなくなって面倒くさがりの担当者なのであった。

ならば人に頼むしかない。急速に進行している運転席サイドサポートのひび割れも含めて処置してもらおうと、千葉県野田市の「株式会社リノベート」に駆け込んだ。スポット板金や内装リペアを生業とする「ディーリング」屋さんである。代

表の渡邊拓矢さんとは旧知で、「趣味を仕事にした」系の好人物。こうした作業は使用する道具や材料選びも大切だが、結局のところその仕上がりが具合は、作業者の人柄や性格によるところが大きいのだ。普段から細かいところがキチッとしている渡邊さんならきっといい仕事してくれるに違いないと、室内全般のクリーニングおよび前述のひび割れ補修を頼んだ。

新車同然になりました

常磐自動車道の柏インターを降りて国道16号を野田方面へ。10分ほど走って路地を右に入るところに彼のワークショップがある……と聞いてもただのプレハブ倉庫である。看板すらないのは、

輸入車正規ディーラーをはじめとする中古車販売店からの受注が大半を占めるからだ。所在地が野田なのは、日本最大の中古車オークション会場がそこにあるからである。販売店によって落札された車両をいったん預かり、キレイに仕上げた後送り出す、という仕事を数多くこなしている。いわばプロ相手のプロ、というわけだ。もちろん電話で事前にアポをとれば、我々のようにエンドユーザーも受け付けてくれる。

「最も大切なことは、隅々まで徹底的に汚れを落として素材の表面を整えること。ちょっとした傷みならそれでほとんど目立たなくなります。パテ盛り等の修繕はあくまで必要最小限。ボディの板金だってそうでしょう? 肝心の板金を粗く済ませて、



新車同然になったインテリア。というか新車以上に清潔な仕上がりが。右は見事に2トーンになってしまった作業中の写真。もちろん向かって左手のくすんだほうが作業前である。本文では書き漏らしたが、ダッシュボードなど樹脂パーツの補修も可能。シボは傷みのない部分で型をとって転写する。ナビ取付跡の修復などに有効だ。

大量のパテでごまかすのではプロの仕事とは言えません。インテリアも同じなのです」

そんな渡邊さんの言葉に意を強くし、クルマを3日間ほど預けた。で、結果は写真の通り。驚愕の出来映えである。まさか室内がこんなに明るかったとは。というより、こんなに汚れていたなんて……。

気になる費用は、フロアからシート、ダッシュボードやドア内張など内装すべてを含めた室内クリーニングが5万円から。レザーのひび割れ補修は2万5000円からとなっている。UCG号は汚れ、ひび割れともに「中くらいのレベル」ということで、計9万5000円となった。

もちろん、もっとずっと汚れている(傷んでいる)場合でも、リノベートは相談ののってくれる。補修ついでに「色替え」も可能。単色なら布地や起毛素材(アルカンタラ等)の修復もOKという。愛車のインテリアに懸案事項を抱えている方はぜひ一度足を運んで、様々に相談を持ちかけてみるというだろう。仕事は丁寧。腕も確かだ。

Text: 加納亨介 / Photo: リノベート、UCG

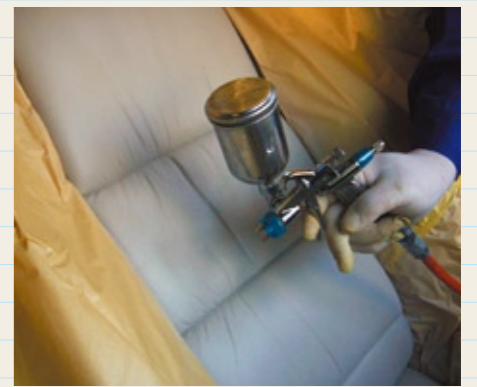
取材協力= (株)リノベート

千葉県野田市山崎2784-1

Tel.04-7199-2161



長年にわたって染みついた汚れや、縫い目に蓄積しているホコリを徹底的に除去しているところ。修復作業の仕上がりに影響するので、これだけで6時間ほど掛けるとか。



しつこい汚れをムリに落とそうとすると素材を痛めることがある。タイミングを見極めて清掃を止め、綿密に色を合わせた塗料を薄く吹いて対処する。もちろんクリアーも吹く。



徹底した清掃/下地処理の後、レザーのひび割れ部分に専用パテを盛っているところ。パテの量をいかに少なく済ませるかが腕の見せどころとなる。



ひび割れビフォー&アフター。プロ中のプロの仕事は、風合いだけでなく肌触りまで新品同様。ゴワゴワしないのだ。耐久性も新車に劣らないという。